

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台国際センター及びせんだい青葉山交流広場・駐車場	
2 指定管理者	青葉山コンソーシアム	
3 指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和5年度 291,056人(前年度比 118.5%) 令和4年度 245,532人 令和3年度 116,487人	
	《事業》 ・仙台国際センター及びせんだい青葉山交流広場・駐車場の適切な運営管理 ・本市の交流人口拡大に向けた国際会議や学会等の誘致	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 0千円 (35,929千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 604,327千円 (468,159千円) ※上記金額は仙台国際センター施設使用料・附属設備利用料、せんだい青葉山交流広場・駐車場使用料の合計 ・ その他収入 96,582千円 (71,171千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 仙台国際センター独自の利用者アンケートを実施し、その結果を業務改善に役立てた。	

二 管理運営に係る評価 (モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に沿った適切な運営を行っており、施設目的も十分に達成されている。	21/21
II 施設の運営管理体制	セキュリティ対策、事故防止策、災害時対応等にも適切に対応しており、安全かつ円滑な施設の運営管理体制を構築している。 本市災害対策本部の拠点が災害により使用困難となった場合に、代替施設としての役割を果たすべく体制を整備している。(令和2年2月28日「大規模災害時等における施設利用の協力に関する協定書」締結。)	31/30
III 施設・設備の維持管理	施設、設備の適切な維持管理を行っている。特に仙台国際センターの会議棟は建設から30年以上経過しており、経年劣化への対応が求められている施設であるが、指定管理者は各設備の状況をよく把握し、適切な管理を行っている。	24/24
IV サービスの質の向上	青葉山コンソーシアムは複数の企業で構成される団体であるが、職員間の情報共有や役割分担も適切に行われており、それぞれの専門性を活かした管理運営が行われている。また、運営全般を網羅した運営ガイドラインを整備し、サービス水準の確保が図られるような体制が構築されている。 その他、Googleストリートビューやパンフレットを活用したオンラインによる視察対応や、悪質クレーム等対応に関する定期的な研修を実施し、職員の危機管理対応レベル向上に努めている。 苦情等への対応策については、秘匿性の高い催事および参加者が多いため利用者への公表していないが、改善に向けて随時取り組みを進めている。	29/28
V 施設固有の基準	新型コロナウイルス感染症の影響下においても、先を見据えた誘致活動等を継続していたことにより、感染症による利用制限解除後の利用者の早期回復に繋がった。 また、新たに開館した緑彩館を含め、周辺施設の管理者やコンベンション関係者等を交えた会議体を組織し、サービス向上や地域が一体となった取り組みを推進している点を評価する。	5/3

三 評価総括

《指定管理者（青葉山コンソーシアム）による自己評価》
<p>私ども青葉山コンソーシアムは平成27年4月1日より指定管理者として、適正な施設管理業務と利用者サービスの向上、地域貢献に努めてまいりました。</p> <p>令和5年度における運営状況は、5月8日に新型コロナウイルス感染症の法定感染症分類が第5類へと移行したことが契機となり、予想を上回る速度で催事の利用が回復しました。この間、世界的なインフレ及び円安などの不安要因が存在する中で、適切な支出管理を行い収支の改善を図ることができました。</p> <p>催事に関しては、青葉山エリアに新たに仙臺緑彩館が誕生し4月26日から6月18日まで「第40回全国都市緑化仙台フェア」が開催され、仙台国際センターでは4月26日に開会式、さらに5月24日には、佳子内親王殿下の御臨席を賜り「令和5年度全国都市緑化祭」が盛大に執り行われました。また、5月には「IEEE International Magnetics Conference 2023 (Intermag2023)」、8月には第46回日本神経科学大会、10月には第76回日本胸部外科学会、11月には第33回日本医療薬学会などの大型学術会議が開催され、これらの会議に加え、展示会も多数開催されました。そのため、現地で催事を開催することの重要性を再認識することも出来ました。</p> <p>令和6年度は不安定な世界情勢、円安、人件費や物価の高騰等不安要素も多数ある中、安心・安全な施設運営を行い、利用者の利便性向上やDXを含む業務効率化、省エネルギー性を重視した施設の維持管理に努めます。また、ナノテラスが本格的に稼働することから学術会議、国際会議のための誘致活動と広報活動を積極的に行い、さらなる利用促進を図るとともに市民の皆様にも広く親しみやすい施設づくりを目指し、仙台市の交流人口拡大と経済成長に貢献してまいります。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>平成27年度から利用料金制（施設利用料を指定管理者の直接の収入とし、その収入から施設所有者である当市に納付金を納入する制度）による指定管理制度を導入し、公募によって選定された青葉山コンソーシアムが「仙台国際センター及びせんだい青葉山交流広場・駐車場」の指定管理者として施設の管理運営を行っている。</p> <p>令和5年度は、新型コロナウイルス感染症による施設の利用制限が撤廃され、施設の利用者も回復してきたことにより、令和元年度以来、現指定管理期間では初めてとなる全体収益で黒字を達成し、指定管理者納付金を仙台市に納めるなど、収支面で安定した施設運営を行うことができた。</p> <p>また、施設の管理運営の面においても全体を通して良好で、学会・展示会・会議等の開催が多い本施設の特性に応じた管理が行われており、人材育成等を含め、総じてバランスの取れた運営がなされている。</p> <p>なお、利用料金制を採用する仙台国際センターでは、従来は民間企業のノウハウを活かした能動的な施設運営が求められたため、評価分野「V 施設固有の基準」について、事業収支等に関する評価基準を設けていたが、評価を設定した当初は新型コロナウイルス感染症の先行きが不透明であったため、令和2年度から本年度においては、新型コロナウイルス感染症対策に着目した基準としている。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):文化観光局観光交流部誘客戦略推進課